医療介護経営研究センター

Research Center for Medical and Long-Term Care Management

「医療経営」「介護経営」に関する研究・実践を通じ医療・介護分野の経営課題の解決を支援する

超少子高齢社会にあって、医療機関や介護事業所は質の高い医療と介護を提供するとともに、自律的に存続していくことが求められていますが、人材不足や経営力量の不足など様々な課題があります。同時に医療・介護費用の増大は社会保障制度を持続していく上で深刻な課題となっています。

こうした医療機関や介護事業所の経営課題と社会課題の解決に寄与することを目的として、2019年、医療介護経営研究センターが発足しました。それに先立って2009年に設立された医療経営研究センターで、10年にわたって医療と介護における経営について研究と実践を積み重ねてきました。それを継承・発展させ、新たに誕生したのが本センターです。

本センターの特長は、経営学、生命科学、薬学、スポーツ健康科学など多様な分野の研究者が連携し、医療経営と介護経営の両軸で研究するところです。学術研究に留まらず、産官学連携のもと、医療と介護の経営課題および社会課題解決型の研究を推進しています。

医療分野においては、今後、病院経営を厳しい環境下でどのようにすべきか、さらに地域医療構想においてそれぞれの病院はどのような役割を果たすことが求められるのかについての関心が高まっています。そこで、「病院経営のあり方に関する研究」に焦点を当てた研究を行っています。

介護分野においては、口腔とリハビリテーションと栄養の取組は一体となって運用されることで、より効果的な自立支援・重度化予防につながることが期待されています。そのためには、医師、リハビリテーション専門職、管理栄養士、看護職だけでなく、歯科医師や歯科衛生士等を含む多職種による総合的なリハビリテーション、機能訓練、口腔・栄養管理を行うことが求められています。それには、リハビリテーションの負荷又は活動量に応じて、必要なエネルギー量や栄養素を調整することが、筋力・持久力の向上及びADL維持・改善に重要です。そして、こうした課題の解決を図るとともに、ICT活用やAI化の現状を踏まえつつ、科学的介護研究を行っています。

第15回医療経営研究会開催

2024年3月2日（土）に、立命館大阪梅田キャンパスにて、第15回医療経営研究会を開催しました。講演者は（株）MMコーポレーションの取締役流通戦略部長の八島秀幸氏他が、「流通システムの変化と医療機器卸（MMC）の歩み、そして今」というテーマで講演していただいた。医療材料SPDの仕組みと取組み、医療ITシステムの現状と課題、SCMとCRM、物流システムのあり方などについて、具体的かつ多面的に論じていただいた。

大阪歯科大学/立命館大学 口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアム設立

2024年3月29日（金）15時～17時に、立命館大学大阪いばらきキャンパスにて、大阪歯科大学/立命館大学 口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアム設立総会を開催しました。大阪歯科大学と立命館大学大学院の両大学関係者およびコンソーシアムに参加される企業の方々が集まり、今後、多職種の方々と連携を進めつつ、産学連携によって口腔・リハビリテーション・栄養の一体的取組みに関する調査・分析を進め、その成果を社会実装していくことになりました。

主な研究テーマ

- 病院経営のあり方に関する研究
- 口腔・リハビリテーション・栄養の一体的取組みに関する研究
- 科学的介護研究

センター長：肥塚 浩（経営管理研究科 教授）
主な研究拠点：大阪いばらきキャンパス
お問い合わせ：立命館大学 研究部 OICリサーチオフィス TEL：072-665-2570 FAX：072-665-2579 ✉：oicro@st.ritsumei.ac.jp
http://www.ritsumei.ac.jp/research/mltcm/